

2018年2月22日
監査懇話会

安倍自民党と日本政治の今後

中北浩爾(一橋大学)

問題が発生した時にどう行動する？

ケース①

ひいきにしている近所のパン屋の味が代替わりで落ちた。

ケース②

職場に蔓延するハラスメントで、仕事に行くのが苦痛になった。

ケース③

支持している政党の政策が近頃どうも気に食わない。



ハーシュマンの主張

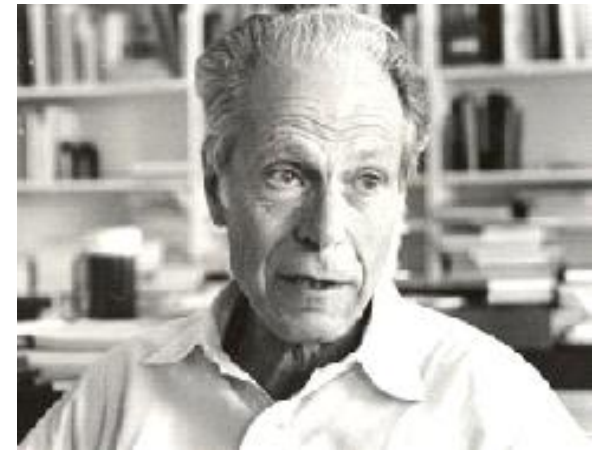
2つの反応

- ①離脱(Exit): 商品の購入をやめる。組織を抜ける。
- ②発言(Voice): 色々な手段を使って声をあげる。

①は競争(市場)メカニズム

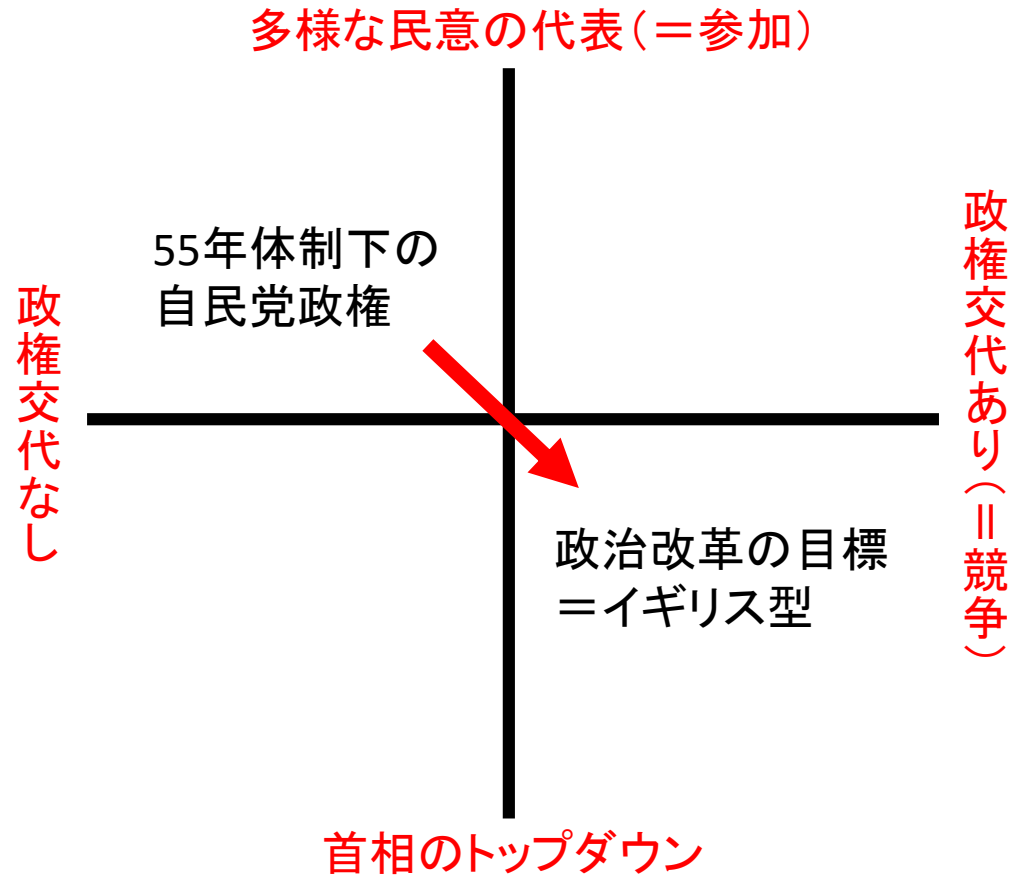
②は参加メカニズム

→両方が適切に機能することが大切



アルバート・O・ハーシュマン『離脱・発言・忠誠』ミネルヴァ書房、2005年。

1994年以来の政治改革 競争なき参加から、参加なき競争へ



政治改革の内容

①選挙制度改革：小選挙区比例代表並立制の導入

小選挙区300、比例代表200、重複立候補制＝小選挙区制が中心
さらに2000年に比例定数が20削減

→「政権交代ある民主主義」に向けて**二大政党化が進展**（デュベルジェの法則）

②政治資金制度改革

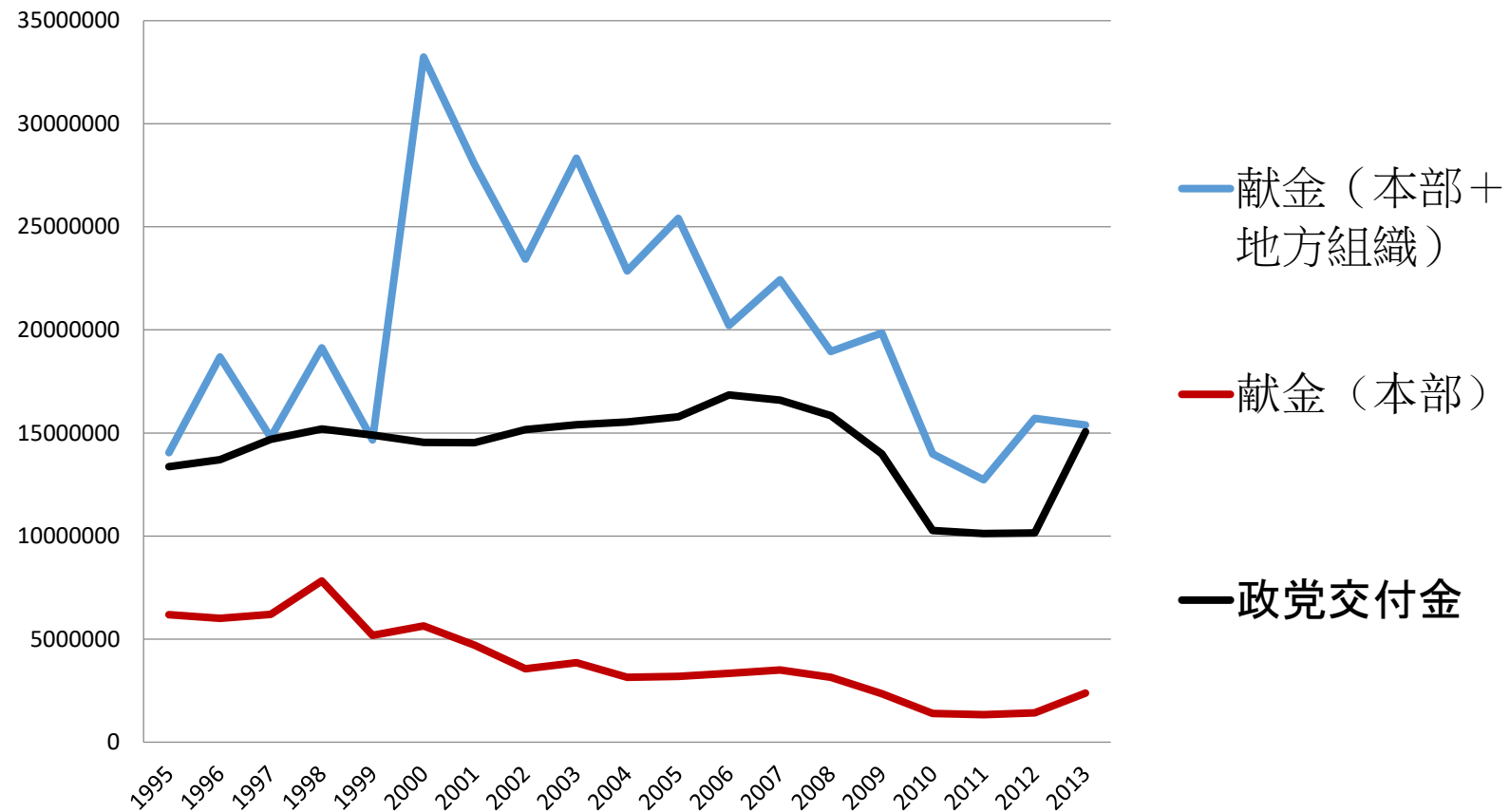
政党助成制度の導入＋企業・団体献金の制限強化

→**党首を中心とする党執行部の権限強化、党員・支持団体の減少**（政党の有権者離れ）

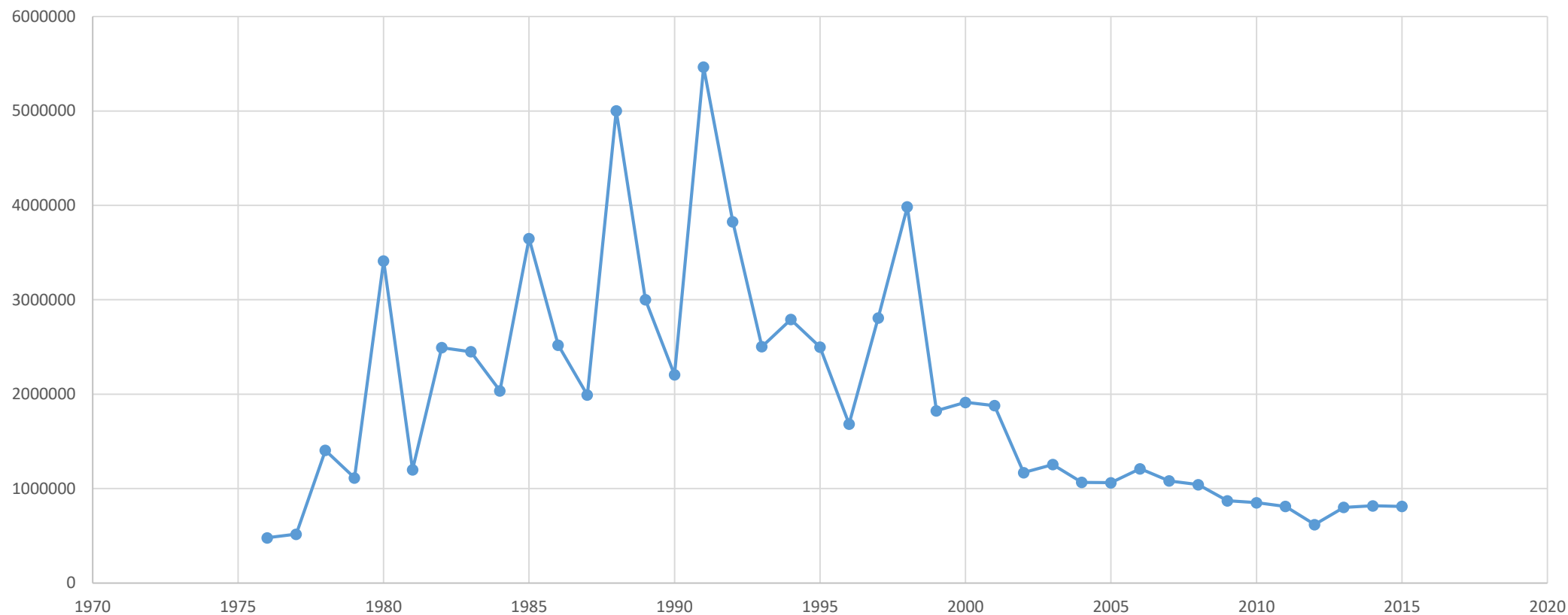
90年代後半の橋本龍太郎内閣による**行政改革（橋本行革）**で内閣機能の強化



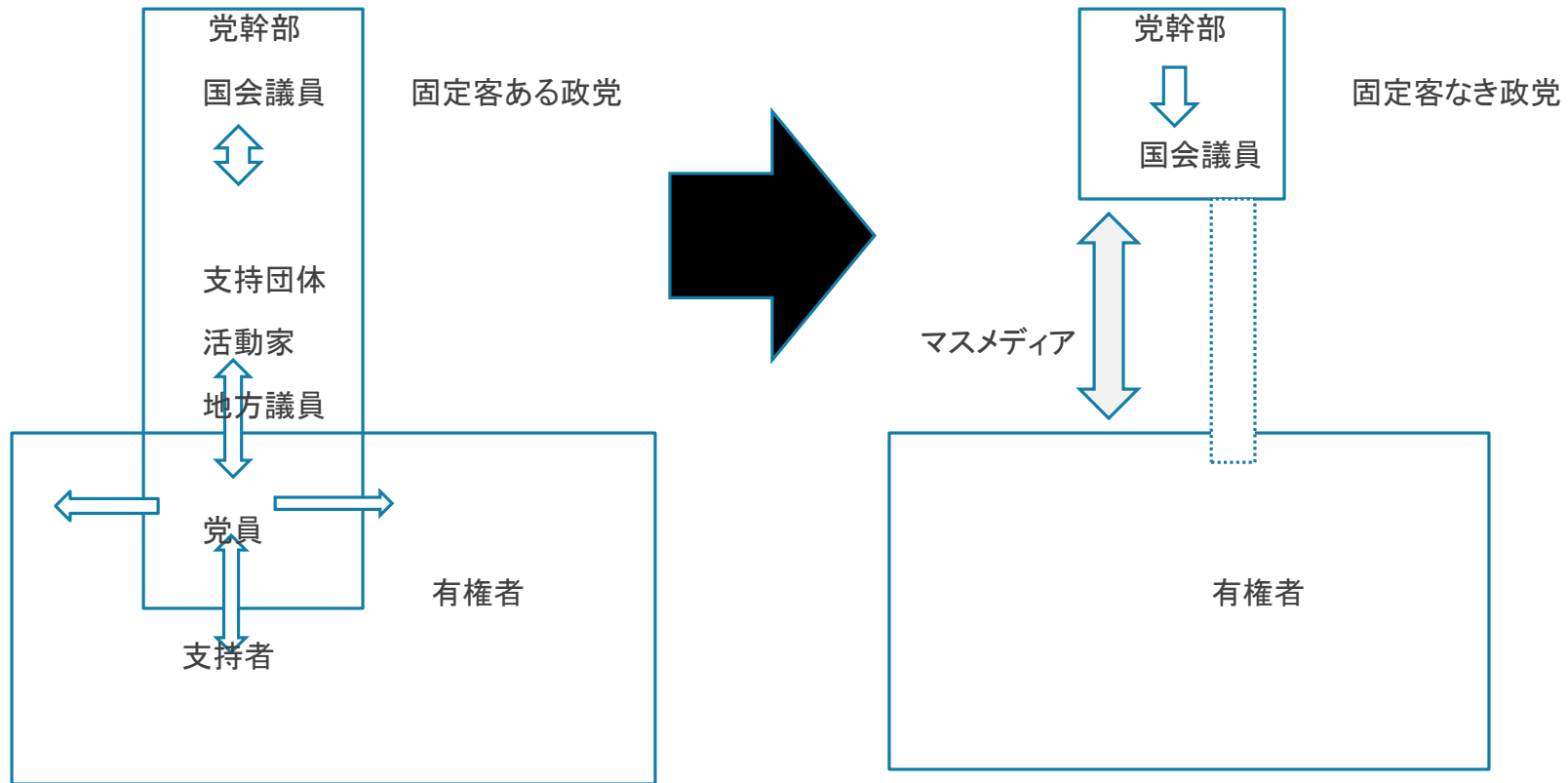
自民党への献金・政党交付金の金額の推移



自民党の党員数の推移



変化する政党—有権者関係

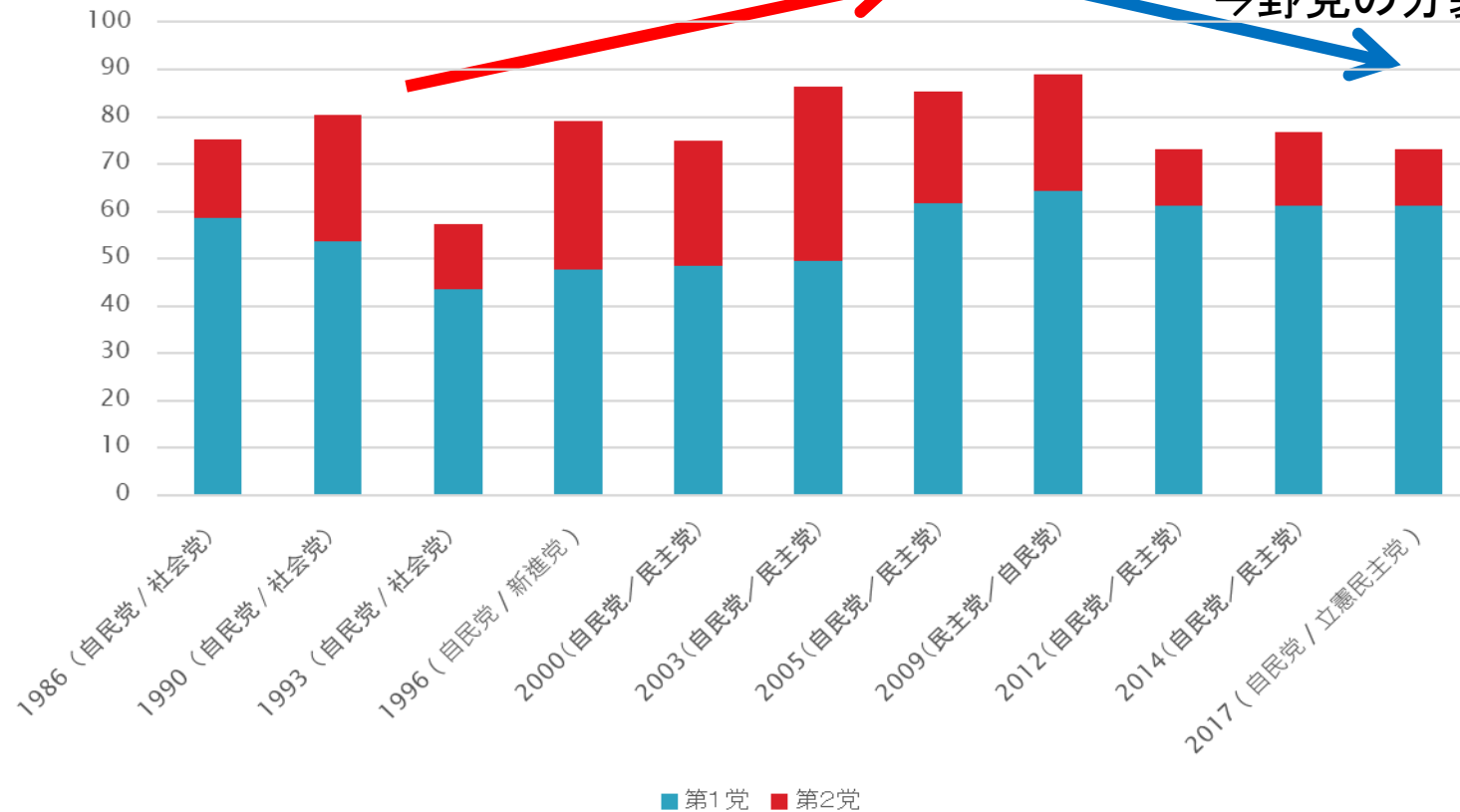


二大政党化の進展

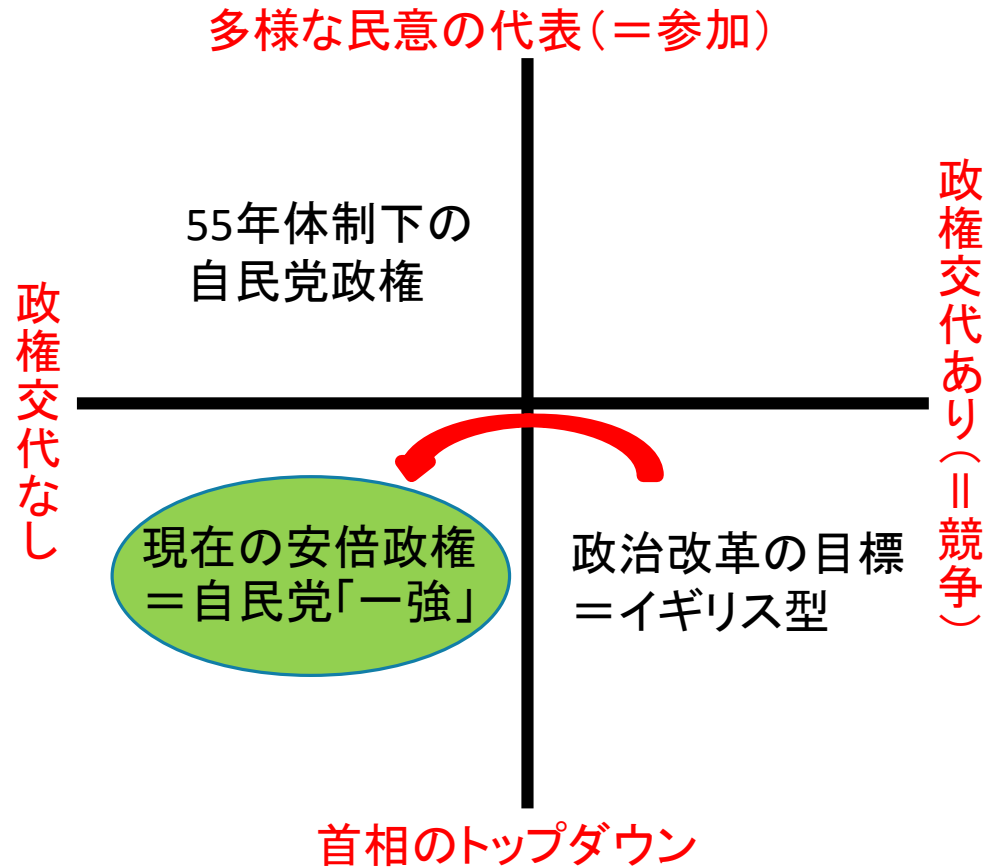
二大政党の衆議院の議席率: 9割近くまで

民主党政権の失敗

→野党の分裂+無党派層の失望



日本の民主主義は 機能不全に陥っている



安倍自民党「一強」とは何か

安倍自民党の「一強」状態—2つの強さ

(1)他党に対する自民党の強さ(国政選挙での5連勝)＝自民党「一強」

(2)自民党政権内での安倍首相の強さ(トップダウンによる政策決定)＝安倍「一強」



小泉首相との比較で考える



小泉と安倍の政治的バックグラウンド

	小泉純一郎	安倍晋三
初当選	1972年	1993年
政治的原点	自民党内の派閥抗争	自民党の下野
主要敵	田中派（経世会・平成研）	民主党・民進党
政策的スローガン	郵政民営化	戦後レジームからの脱却
派閥横断グループ	YKK（「グループ新世紀」）	日本の前途と歴史教育を考える若手議員の会、創生「日本」
首相就任	2001年	2006年、2012年

国政選挙：安定的勝利

小泉政権

大勝(01参、05衆)、伸び悩み(03衆)と敗北(04参)

無党派層を重視(不安定)、高い投票率で勝利

→ポスト小泉の迷走、2009年の政権交代へ

現在の安倍政権

大勝が続く(12衆、13参、14衆、16参、17衆)

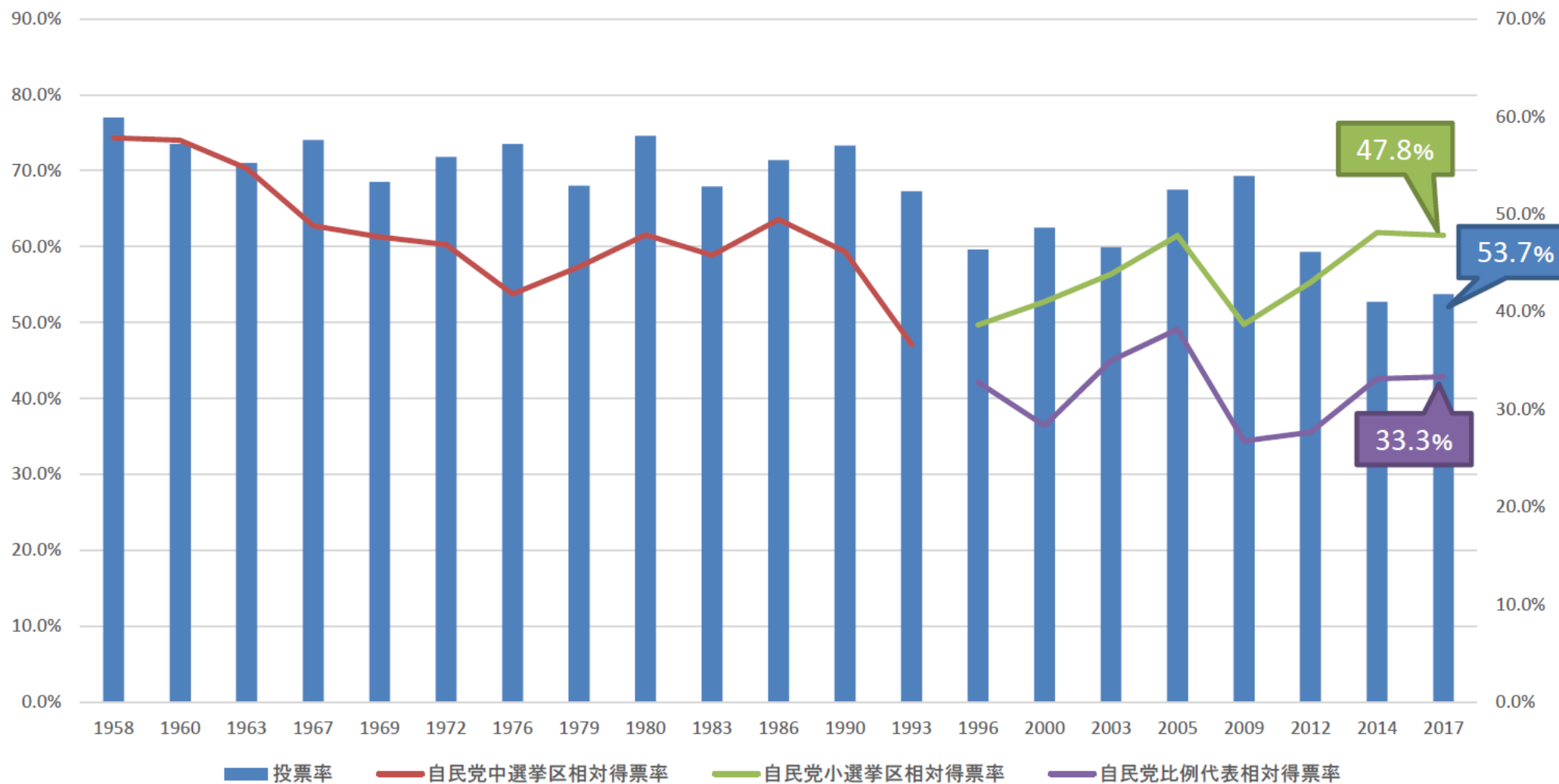
支持基盤を重視、低い投票率で勝利

＝紆余曲折があった今回の総選挙でも全く変わらず



PT1

衆院総選挙における自民党の投票率・相対得票率



中北浩爾『自民党—「一強」の実像』（中公新書）の図に加筆修正

安倍首相はポピュリストではない

ポピュリズムとは何か

「社会は究極的に“純粋な大衆”と“腐敗したエリート”の二つの同質的で敵対的な陣営に分裂し、政治は前者の大衆の一般意思を代表すべきだと考える薄いイデオロギー」

Cas Mudde & Cristobal Rovira Kaltwasser, *Populism: A very Short Introduction*, Oxford UP, 2017

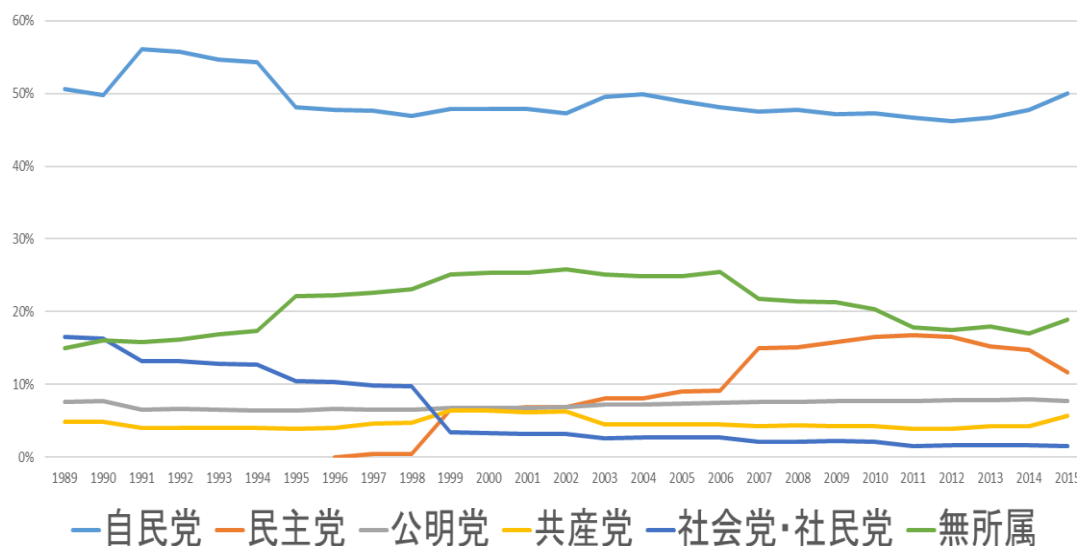
「古い自民党をぶっ壊す」と叫んだ小泉首相はポピュリストとしての性格が強い
安倍首相の批判の矛先は民主党・民進党をはじめとするリベラル勢力

ただし、日本のポピュリズムは新自由主義型にとどまる
欧米のような福祉排外主義(ショービニズム)型は未成熟



依然として分厚い自民党の支持基盤

都道府県議会の党派別割合の推移



地方議員：自民党の強さの源泉、国会議員および地方議員の個人後援会が末端組織

友好団体：労働組合を除く政党に関わる団体のほとんどが自民党支持

公明党というパートナー

自民党「一強」を支えるもう一つが創価学会を支持母体に持つ**公明党との選挙協力**

600～700万票、一つの小選挙区あたり2万～2万5000票といわれる

公明党は都市部の堅い票であり、農村部を中心に緩やかな票を持つ自民党と補完関係

両党間では**候補者調整**に加え**票の融通**も(「比例は公明」)



両党間には摩擦もあるが、**互恵的な関係**

しかも創価学会が選挙での勝利を重視する以上、**連立の解消は当面ない**



自公vs.野党共闘

① 固定票の多さ

自公には旧民進＋共産の1.5倍以上の固定票があるとみてよい

加えて、自公が票を食い合わないのに対して、民共は反自民票を取り合う(今回も)

② 選挙協力の深さ

野党共闘も候補者調整がある程度可能だが、不完全

相互推薦・支援による票の融通は不可能

共産党が路線転換できない限り連立政権は無理



脆弱化する自民党の支持基盤

自民党の支持基盤の脆弱化

個人後援会の高齢化、地方議員の減少、業界団体の衰退など
＝自民党の党員数の減少(前出)、絶対得票率の低下(次頁)



野党が「結束」した上で無党派層の「追い風」を受ければ、自民党も危うい

成功した2009年の小沢戦略:

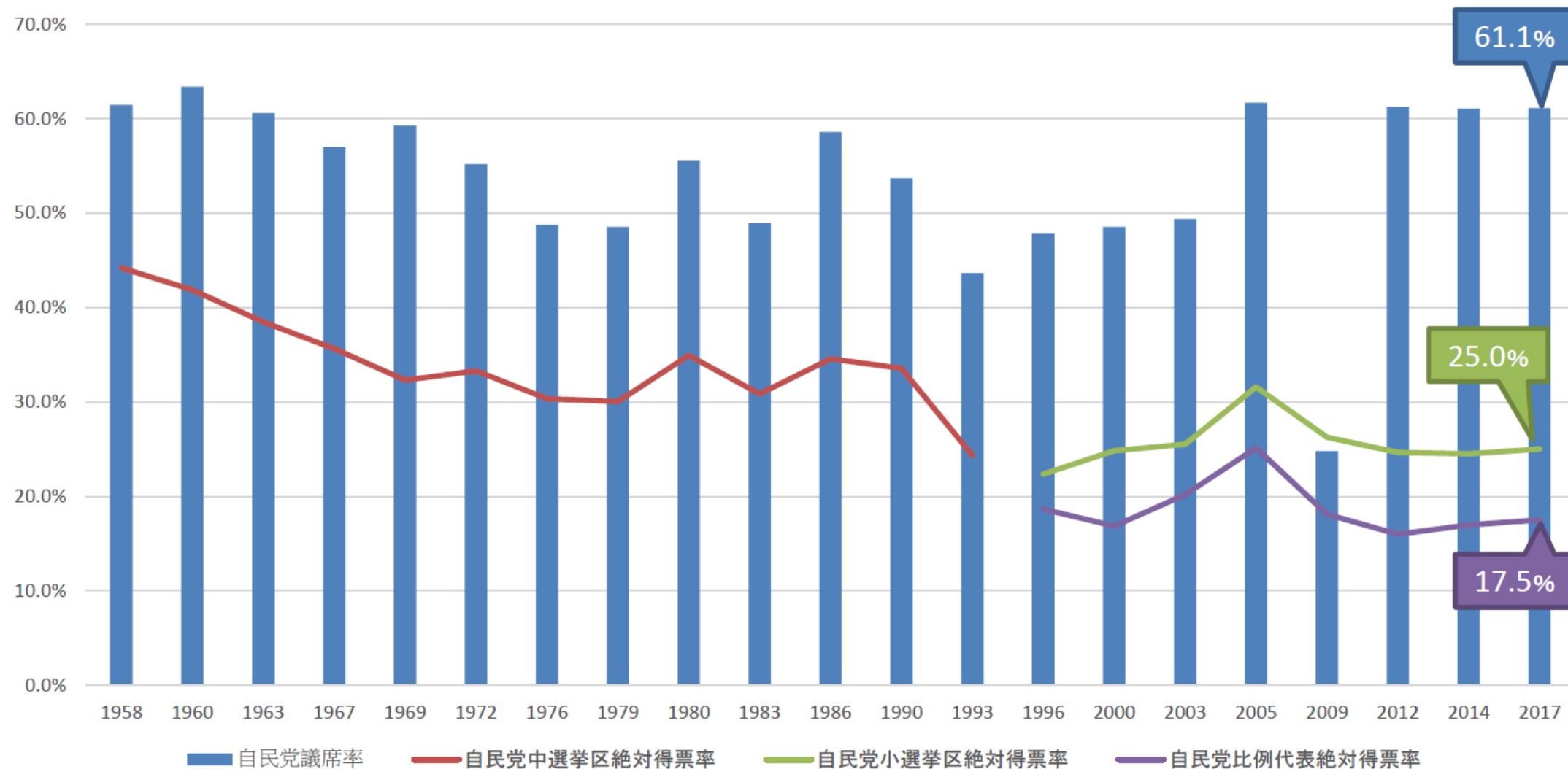
①内部の結束を固めた上で、社民・国民新と協力、共産党と調整、②政権交代の追い風

失敗した2017年の前原戦略:

①希望への合流→共産党の「第二自民党」批判と立憲民主党の結成、②小池旋風→失速



衆院総選挙における自民党の議席率・絶対得票率



中北浩爾『自民党—「一強」の実像』（中公新書）の図に加筆修正

小泉自民党と安倍自民党の違い

	小泉純一郎	安倍晋三
人事(特に派閥)	排除的	包摂的
政策	新自由主義的改革	利益誘導政治との両立
理念	限定的な右傾化	右傾化
政策決定プロセス	官邸主導 ＋事前審査制の破壊	官邸主導 ＋事前審査制の利用
国政選挙	無党派層の重視	支持基盤の重視

人事：党内融和

安倍首相は「お友達優遇」と言われつつも派閥の領袖クラスを多く包摂(⇔小泉首相の脱派閥人事)

麻生副総理、二階幹事長、竹下総務会長、岸田政調会長→派閥の上意下達機関化

石破派だけが非主流＝最大の不安定要素、だが孤立状態

2017年夏の内閣改造では野田総務相、河野外相らライバルを起用

幹事長ポスト：石破茂、谷垣禎一、二階俊博(ライバル)

⇔小泉首相の場合：山崎拓、安倍晋三、武部勤(味方)

2015年の総裁選：無投票再選(×野田聖子)

⇔小泉首相の2003年総裁選：抵抗勢力と争う(亀井静香・藤井孝男)



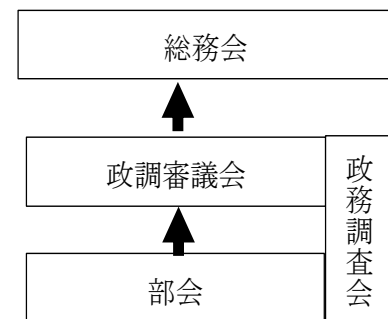
政策決定プロセス：事前審査制の活用

事前審査制とは何か

内閣提出法案などの閣議決定前に自民党の審査を経て了承を得る

ボトムアップとコンセンサスを重視

他方で国会で党議拘束がかかって造反は処分



小泉；事前審査制の破壊によるトップダウンを試みる、郵政民営化では実質的なスキップ

安倍：内閣人事局設置など政府の集権化や族議員の衰退を背景にトップダウンを実現

とりわけ総裁直属機関の活用

その一方で事前審査のプロセスを通すことで党議拘束をかける

政策：民主党に対抗する党内結束

小泉首相：新自由主義的改革、それに反対する党内の「抵抗勢力」との戦い

安倍首相：民主党に対抗すべく「戦後レジームからの脱却」(右傾化)

その反面で支持団体を含む党内融和

アベノミクスによる新自由主義的改革(第三の矢)と利益誘導政治(第二の矢)の両立

微温的な農協改革(⇔全特を敵に回した小泉郵政民営化)

診療報酬についても増額(⇔小泉政権)



拡張的な経済政策によるツケ(金融緩和の见えない出口、PBの黒字化の先送り)



右傾化する自民党改憲案

2005年「新憲法草案」(小泉政権の時期)

①9条改正: 自衛軍、②新しい人権: 環境、犯罪被害者、③統治機構改革: 政党条項



2012年「日本国憲法改正草案」(民主党政権の時期)

上記にプラスして**国家権力の強化**や**日本文化の尊重**: 国防軍、家族、天皇元首化...

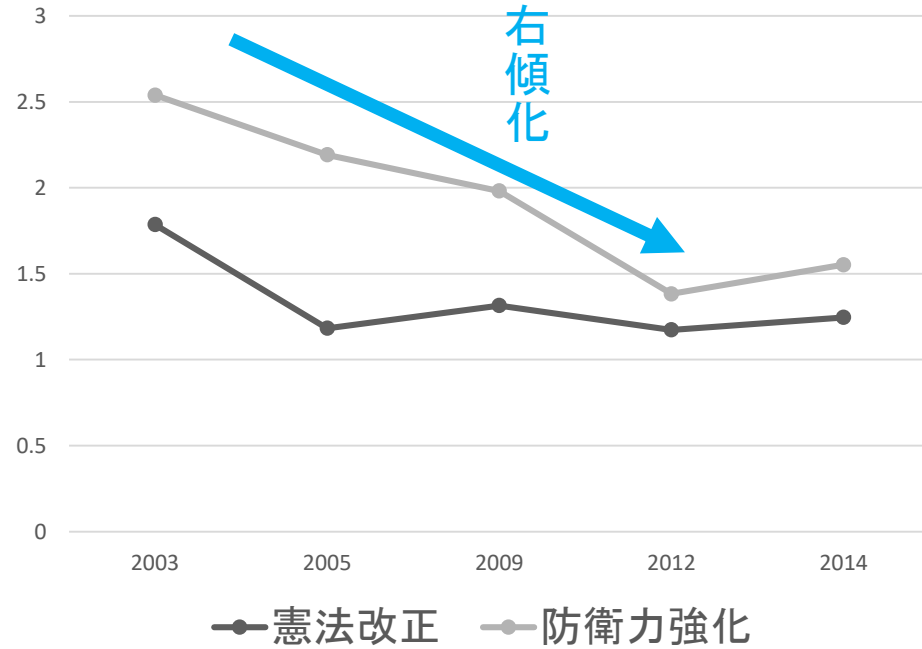
確かに**右傾化が進展**

ただし、**戦前への回帰は限定的**(軍国主義やファシズムではない)

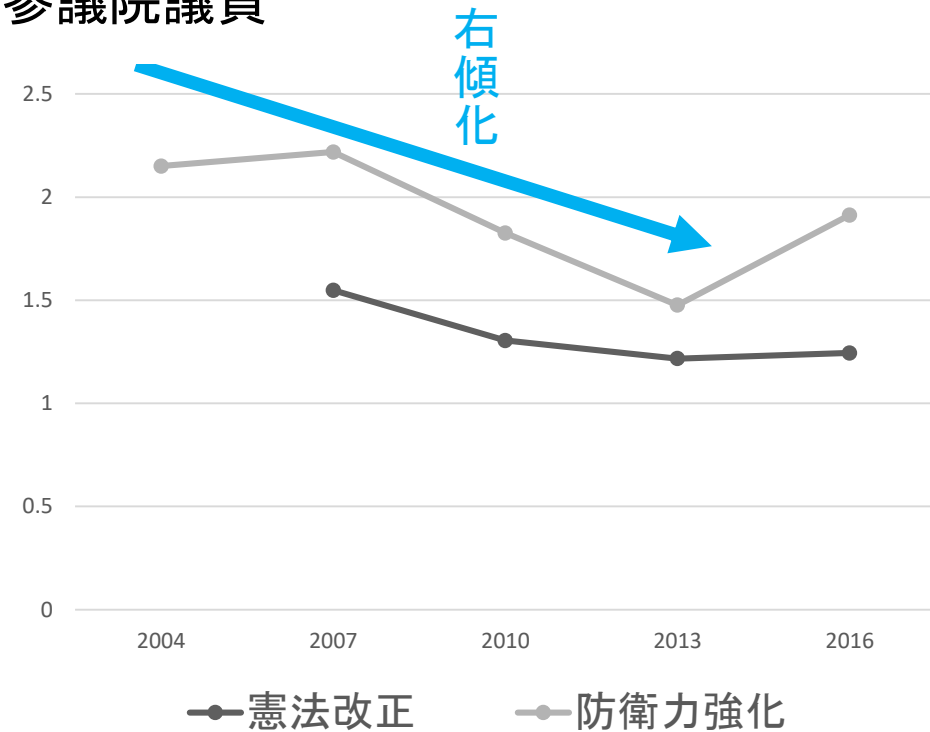


自民党国会議員の右傾化

衆議院議員



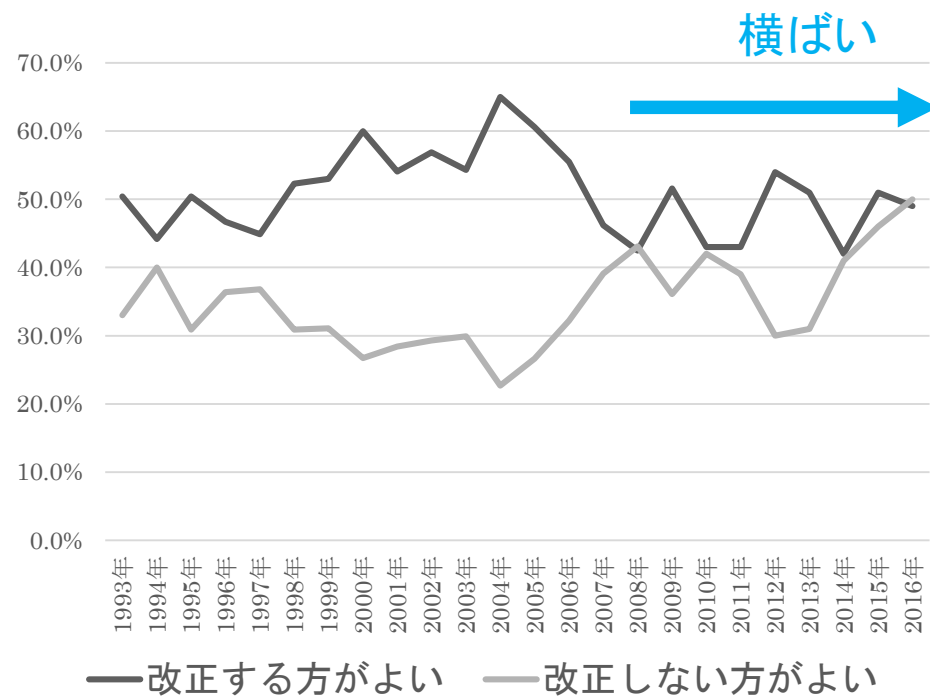
参議院議員



東京大学谷口研究室・朝日新聞共同調査

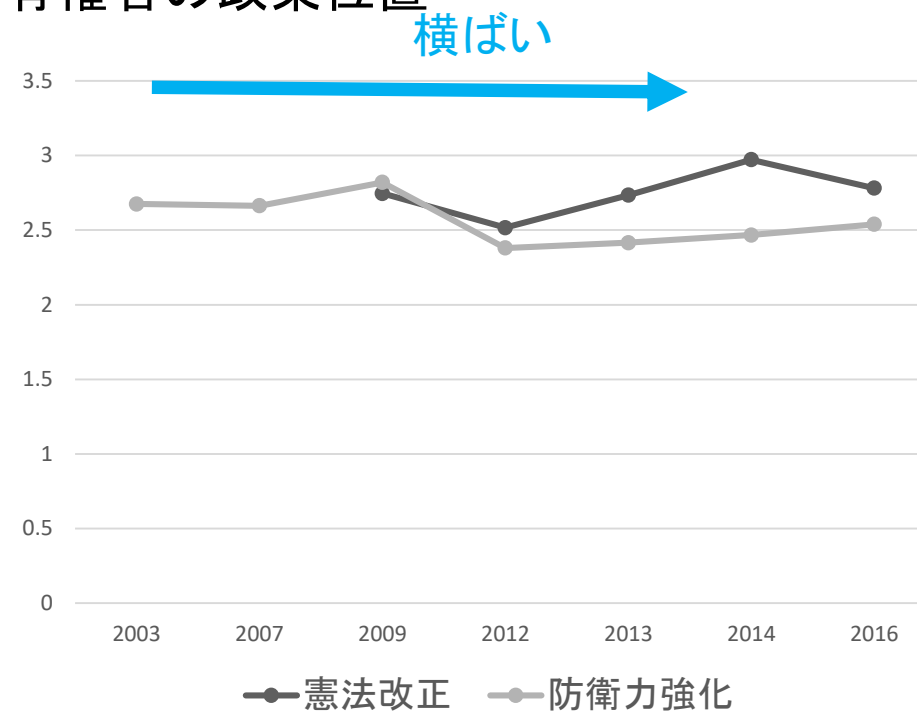
右傾化の原因：世論の右傾化？

憲法改正に対する賛否



読売新聞調査

有権者の政策位置



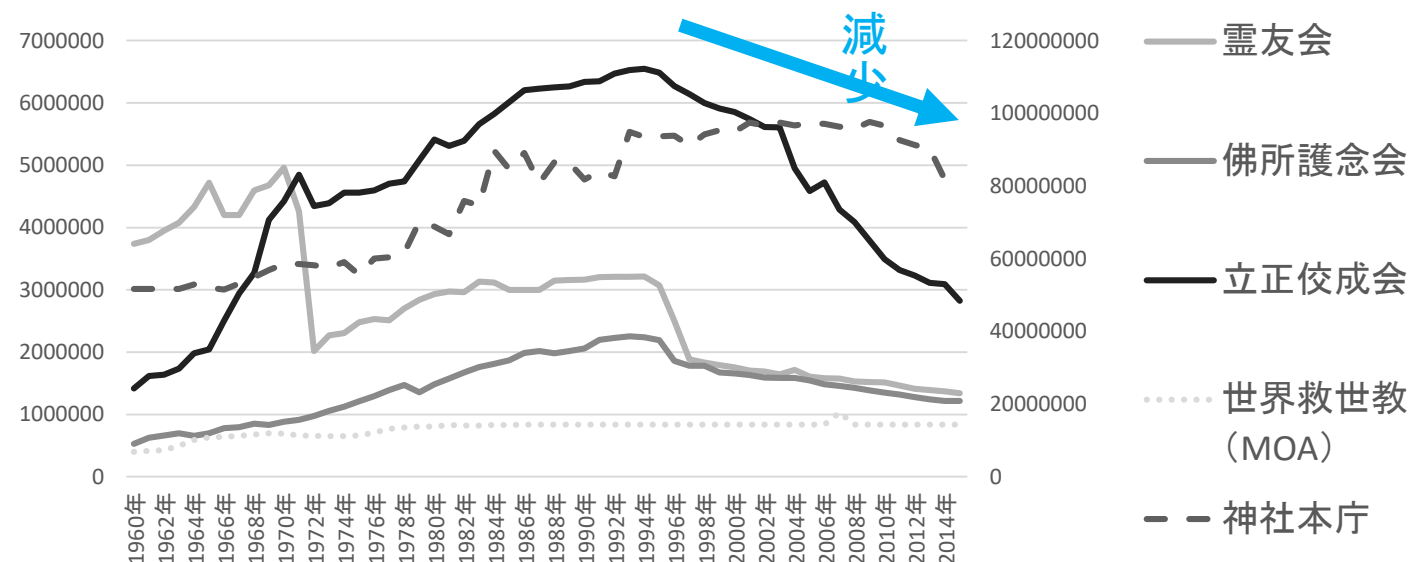
東京大学谷口研究室・朝日新聞共同調査

右傾化の原因：支持基盤の変化（日本会議）？

参院全国区（1977）玉置和郎111万票→参院比例区で有村治子19万、山谷えり子25万

①宗教団体の自民党離れ

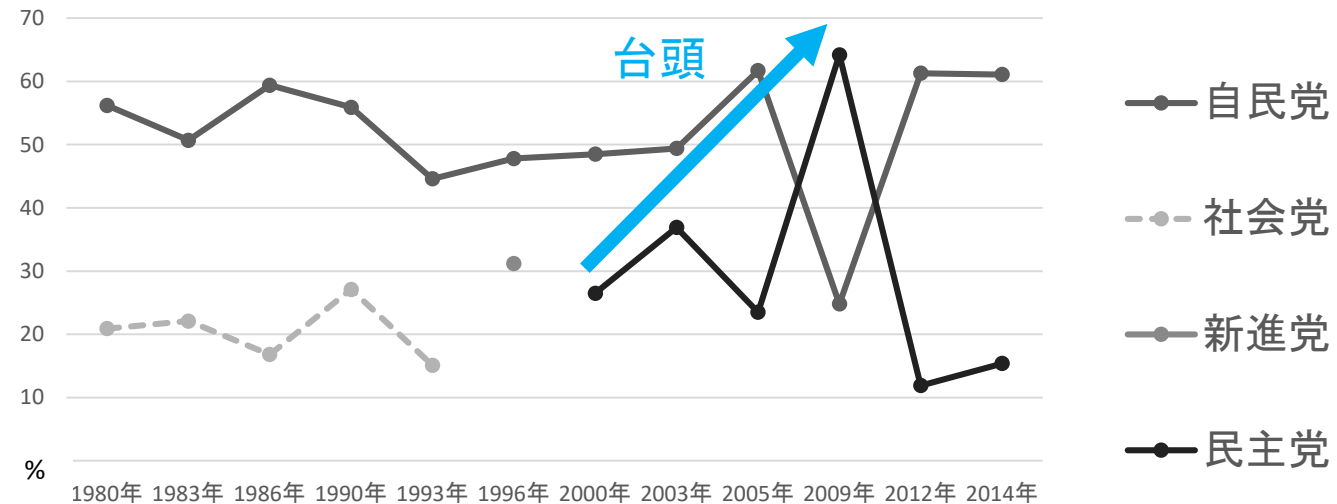
②宗教団体の信者の減少



自民党本部関係者「**宗教界は2000年代以降は下り坂**。信者や資金が減り、政治離れ」

右傾化の原因: 政党間競合の変化

民主党の台頭

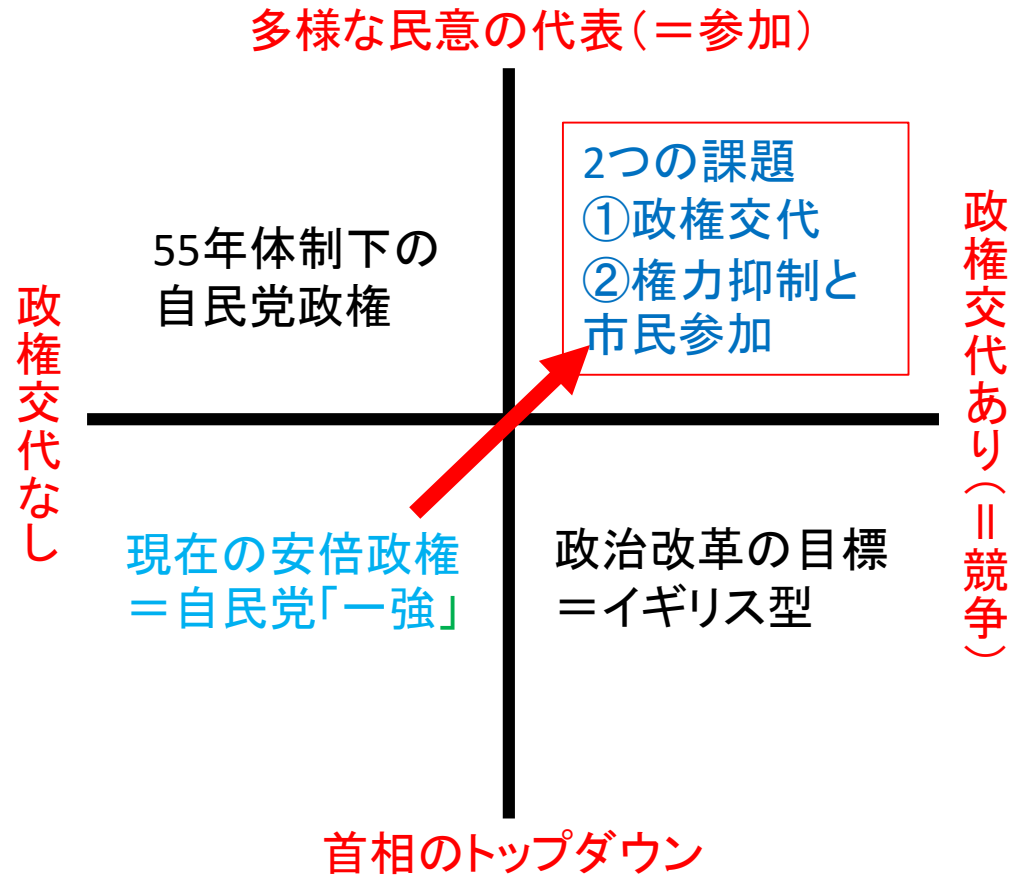


左に位置する民主党と差異化し、自らの存立根拠を示す必要

野田聖子「野党でいると埋没するので与党民主党と差別化するため右にずれた」

⇔かつて新進党に対抗するために左傾化＝1995年の綱領的文書

機能する民主主義をどう取り戻すか



政権交代に向けて

(1) 野党の再結集＋無党派層の風

立民・民進・希望の三党は再結集できるか、難しいのは立憲民主に吹く「追い風」との両立
希望のチャーターメンバーを除けば、政策的な差異は大きくない(次ページ)
国民の理解を得られる新しいリーダーと理念・政策を見出せるか？

希望の党

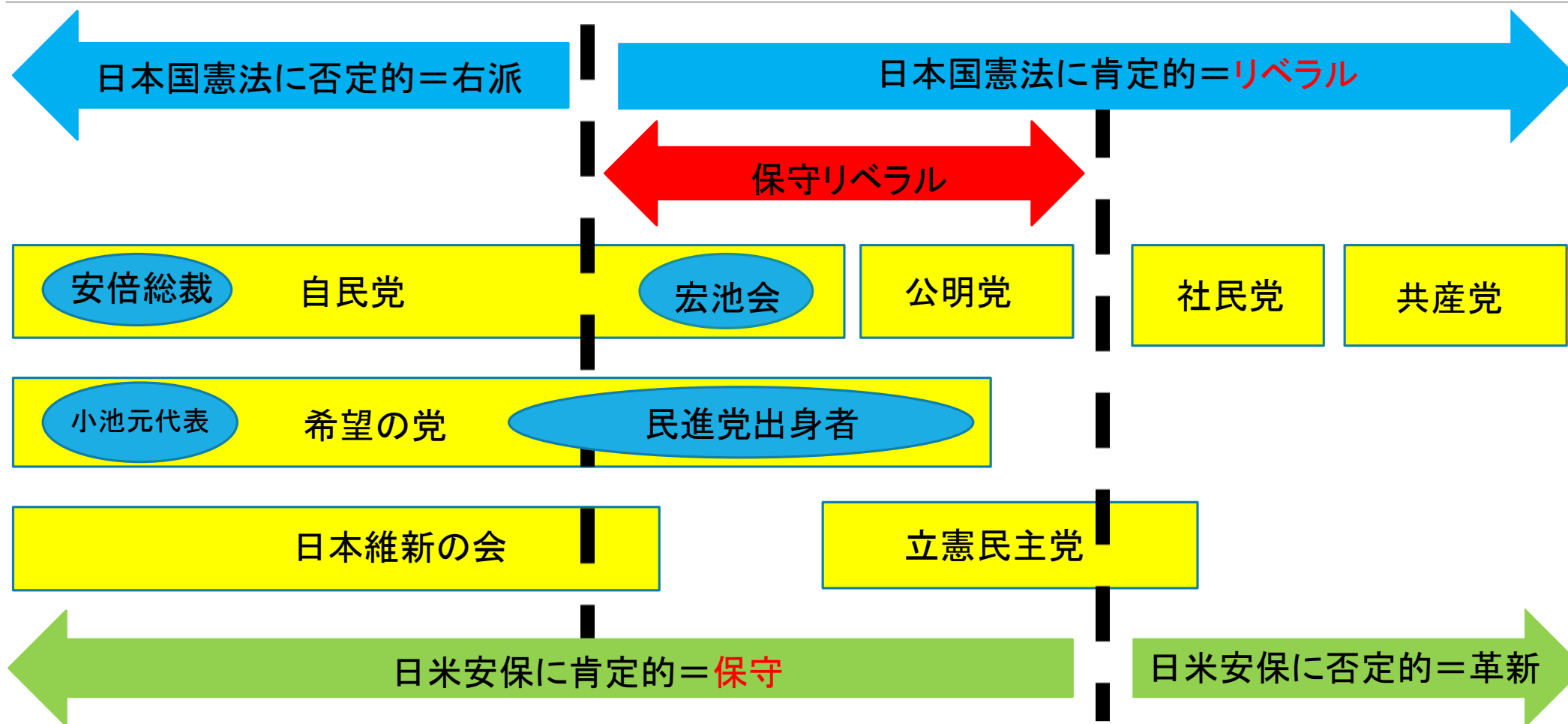
立憲民主党
The Constitutional
Democratic Party of Japan

The
Democratic
Party
民進党

(2) 選挙制度を改める

逆説的に聞こえるかもしれないが、小選挙区制の下で自民は過剰議席＋自公の選挙協力
仮に純粋な比例代表制を導入すれば、自民は過半数割れ、自公の選挙協力も解消

保守リベラル(=中道)という立ち位置



権力抑制と市民参加に向けて

(1) 首相権力の抑制

憲法改正：首相の解散権の制約、憲法裁判所の設置

その他：適切な政官関係の構築、情報公開の徹底

(2) 有権者の政治参加の促進

制度改革：政治資金規正法改正による個人献金の奨励、規制だらけの公職選挙法の改正

各政党の工夫＝様々な方法で**支持基盤の強化を地道に進める**

立憲民主党のパートナーズ制度など**ネットを通じた市民との連帯**

希望の党が指向する国会議員・地方議員の**個人後援会の強化**

民進党に強みがある**連合および構成組織との連携強化**



ご清聴ありがとうございました

